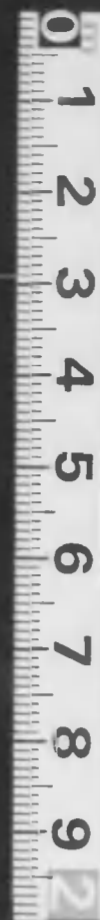


週寫
報眞

編輯部報情閣内
ンセ十・號二十七第・日五月七

支那事變二周年



支那事變二周年



日軍の波、五色旗の海
 歌呼する中国人の聲は廣場
 を賑し街を覆ふ。
 日本よ、あの日、われら
 を陳死より救ひ、わか新中
 國を焦土から甦きあげつ、
 ある日本の手よ、われらは
 いまこそ日本の情けに感し
 日本の力を信しつゝ新らし
 き東亞の建設に力の限り、
 邁進することを誓ふ。
 潮れ果てた血の管に血潮
 わき立つ一億七千萬民衆の
 頭に輝かしい明日の希望
 はほらえむ。

一億一心 百億貯蓄

徵兵保險
 教育結婚保險



第一徵兵

東京銀座 本社



南京はいま清潔な水を市民に飲ませようとして
新政府の監督下に水道通池の復旧工事に
忙しい。支那が復興から救はれる日も近い。



攻略後十ヶ月中文の商業都市漢口の復興が
目ざましい。目貫き通りの各ビルは足場
もガツテリと建築が進められてゐる。

上海市街のあの開北、わが軍が攻めに攻
め廢墟と化した開北も復興の歩を進める。



「新しい支那は俺等若い者の國だ」小さな大
工さんの口を突いて吐かれたこの語は抗日軍
兵士として拉致された親に別れた子が打出す
拳に力を添へる合言葉でもあった。

わが空爆に、砲撃に破壊された中山門は敵
の防線城壁から新支那建設の標本板に新装、
行人の足を止める。

蘆溝橋の鉄壁一發わが軍が直に占領した思
ひ出の一文字山はいま主要道路として建設が
進められてゐる。

戦地なる建設



あの丘も、この街も敵自らの破壊に或は砲
火に廢墟と化し、支那軍を物語つた瀟湘地
のあそこ、こゝにはやがて生れる新しい歴史
の歩みに力強い建設が續けられてゐる。

破壊は新しい建設の前提でもあった。過
去一世紀に互る群雄割拠による内政の不統一
から来る壓制や外力凌瀆の怪格下に一時は全
く無氣力となつた支那四億の民衆は宿命であ
つた支那軍閥を機會に、いまこそ新しい角
度からアジア民族の團結奮闘に燃え新支那の
建設に向つてゐる。

民衆の心中に燃える眞摯な建設熱は打撃
るハンマーに、捲くモッコに、打つみに、
明日への希望を刻んでゐる。

撮影
同盟通信社
上海プレス・ユニオン

経済開発は進む

棉

米國、印度についた棉花の産地支那、河北省を中心とした種類はいま一面に棉の木が芽をふいて、満つた褐色の土の上に若々しい緑の葉がすく／＼とのびてある。

支那全土で生産される棉花千六百三十七萬ピクル（昭和十一年間、一ピクルは十六貫匁で最希約十枚分の棉）の約三分の一を産出する北支の農民はすく／＼と伸びる棉の木の生命に新支那の息吹を感じ、「平和米」を願って、事業前棉花の出廻り四百五十萬ピクルあつ

た北支は戦火の餘燼未だ治らなかつた昨年でさへ三百三十萬ピクルの出廻りをみせ、先づ棉花は經濟建設の花形となつた。

従來買が盛んといはれた支那棉も、品種が次第に改良され、年々増産の一途を邁つてゐる傾向にある。

棉花資源を全部外國に仰いでゐた日本は支那棉花の大量出廻りと同時に、東亞新秩序建設に手をたづさへて進む仲間の中から相當多くの棉花を得て有無相違する經濟結合の實を遂々と收めてゆく。

長閑な五月の空、彼等は畑に出て棉花の種子を播いた。夫は馬で畑耕せば、妻の手から種子は静かに大地のふところへ。

廣漠たる畑に棉の芽は伸びる。秋の收穫を胸に子供等は若芽の間引に忙がしい。

大陸の殘暑はきつい。九月のとり入れと同時にむせ返へる暑さの中で棉花の種子をとる。



晋縣から横出す棉花は馬車に引かれ、無地平線に没す。



棉花の相場は一ピクル約六十貫見當である。買取人の秤る手許に一瞬六ヶ月間の努力の眼が注がれる。



北支河北省の小さな部落から棉花は晋縣の取引場に山と運び込まれる。

撮影同盟通信社



加工場は黄色がかった原色を白色に晒す。純白の綿は紡がれ綿糸となる。

経済開発は進む

支那の棉花生産は各地の治安と交通の改善から従来自家用とされてきたものが、紡績原料に廻り、いまや棉花は商品としてどんく廻り、上海の紡績、紡績業は活況となり、その製品は殆ど全部が支那内部に廻かされてゐる。

従つて支那が、いままでわが国以外の第三国から輸入してゐた綿糸は必然に減少、自給自足による経済機構の健全な運用が徐々になされつゝある。



綿糸は出来上つた。疵はないか検査場では結核の女工が電燈に透かして調べる。

年々増産を迫る棉花ともなつて紡績も活況となり綿糸は山の如く生産される。

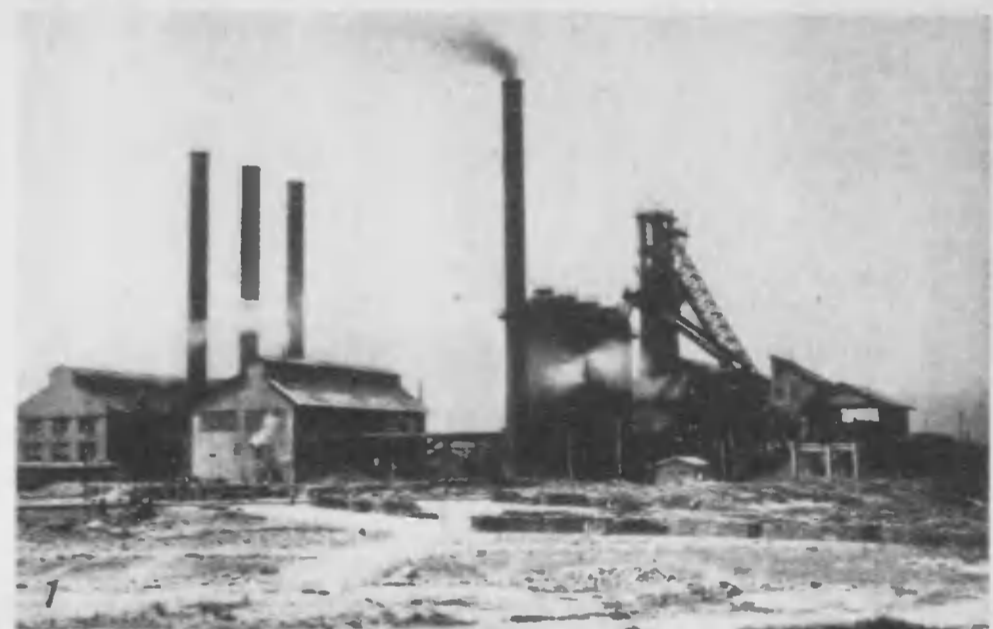


上海のわが東洋、上海南紡績工場は最新の設備を施し製糸に全機能をあげてゐる。見渡す工場は紡績機、繰紡機、精紡機が一齊に動いてゐる。

製糸機に捲かれた綿糸は、廻りつけ廻る。布に織る製糸の準備工作に職工は忙しい。



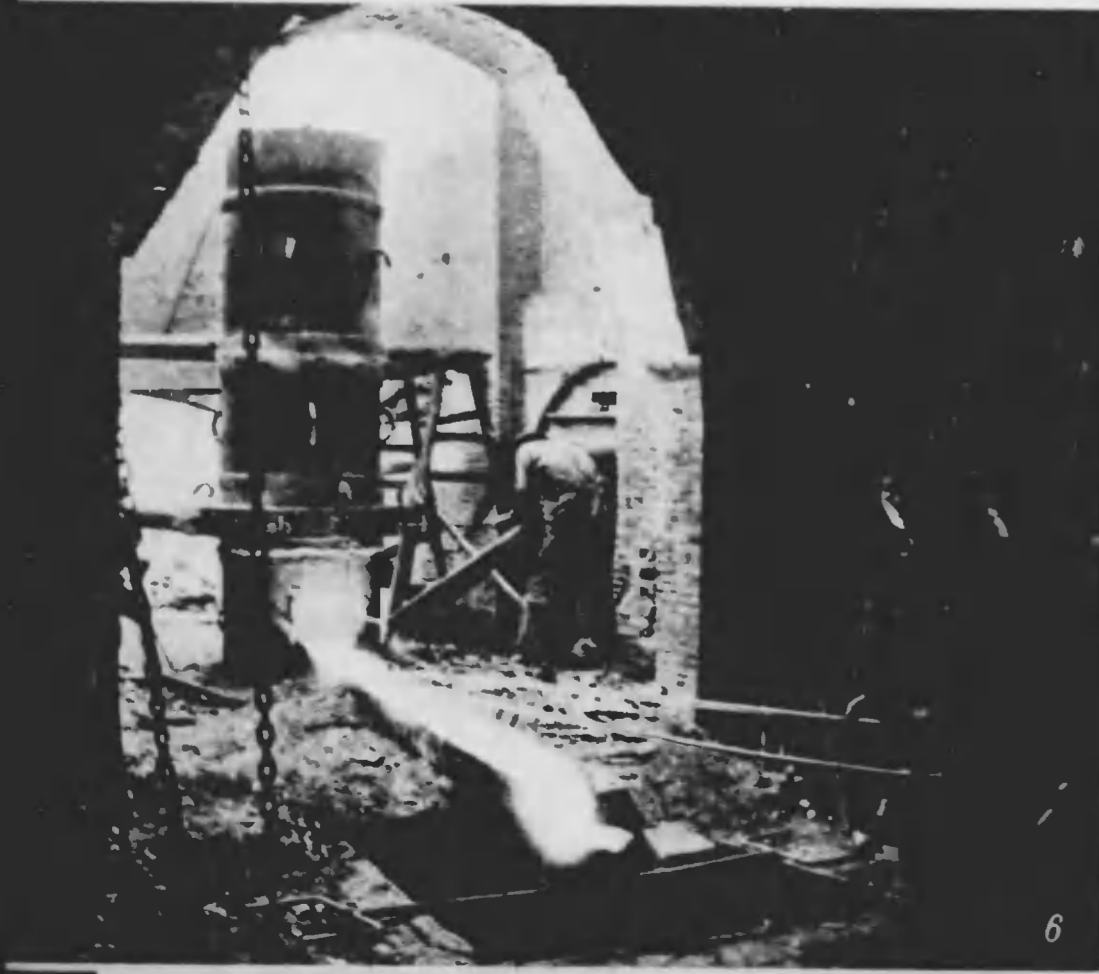
石 鐵
炭 と



兵火のあとに河北省の石景山製鐵所は昨年
末、火入れをし増産はうごきたした。戦禍
に運つた送風機その他の修理も今は全くなり
日本製鐵會社と興中公司との協力で鉄鑛の生
産擴充に奮闘がつづけられてゐる。
鐵鑛は龍烟から、コークス製造用の石炭は
井陘と六河溝から、石灰は石景山の附近から、
それ／＼運ばれ、東亞經濟ブロック建設の力
強い産業を象徴する黒煙はこゝ北支の一角に
もあつたのである。
上海の對岸、浦東にある中山燐礦も石景
山について動きだした製鐵所である。
なほ、これらの鐵は主として大陸の需要に
あてられてゐる。



1.2は石景山製鐵所。
3.4は井陘の炭坑。
5.6は浦東の中山燐礦。





復興した

眞茹無電臺

眞茹無電臺の普備につくわが兵士



海外通信に活躍する支那人オペレーター



事變當初、國際通信界に蔣政権一派のデマ放送を一手にひきうけ、支那の眞茹無電臺を復活させた上海西郊の眞茹無電臺。その強力な大指向性アンテナとたちどろ電氣機、電機四機も昭和十二年十月廿六日、大砲連射攻撃とともに兵火を蒙り、徹底的に破壊されてしまった。

その後、かやかししい新東亞文化建設の一翼として日支協同事業の軍中電氣通信會社が創立され、日支協同事業の復興の努力は遂になり、五月五日、維新政府の治下に重要な新使命を帯びて日本國産機による眞茹無電臺の開設式が華々しく行なわれた。

事變前に倍する強力な米國及び日滿獨逸との交換通信がすでに開始され、上海、東京間の眞茹無電臺もこの秋には完成する運びにまでなり、日支兩國技術者のたのしい協力がこゝにも誇らかな調歌をあげてゐるのである。

桑港にむけ、マニラにむけ、大阪にむけ、新生支那の通信は活潑だ。

對米通信機のスウィッチを入れる支那人技師部員



事變第二周年を迎へて

陸軍省情報部

支那事變發以來既に二ヶ年を経過し、茲に早くも第三年の七月七日を迎へるに至つた。この間、陸軍省の勇戦奮闘と戦後國民の一致奮闘とによつて、武漢を以て支那本土の要地とわが手に落ち占領地はわが帝國全土の二倍に及び、一億數千萬の支那民衆は、茲に始めて身恩に浴するの機に浴した。今や東亞の天地の一角に新秩序建設の礎石を播き、運河として張り始め、われ等は二ヶ年の戦々たる戦果を道標するに當り、先づ以て大業の人柱となつた六萬の英靈に感謝の誠を捧げねばならない。

東亞の新秩序建設、これそれ等には際せられた大の天命である。われ等は新秩序建設の敵と闘ひつゝあり、又敵はわれをならぬ。この敵をばつき、突き止めることと、われ等の奮闘を固めるための前線事件と考へる。

支那軍當局は昨年末以來、慘敗に次ぐ惨敗をつゞけ、さきごろわが大木倉から發表されたやうに、敵の損失死傷累計に二百三十萬、飛行機二千餘機、大砲一千二百門に達する事實によつても支那軍の受けた打撃が如何に大きかつたか、推察される。蔣政権はかうした相つゞけ敗戦にも拘はらず、今尚ほ執拗な抗戦を繼續してゐる。敵は武漢喪失迄を對日消耗戦の第一期、それ以後を第二期とし、目下反抗戦準備時期と稱して、第三期到来せば攻勢に轉じ、一舉に日本軍を東海に覆滅せんと豪語し、意氣なかなかに此とすべきものがある。かくて軍の再建に努力した結果、今日蔣の兵力は再び百五十萬に達したやうであるが戦費喪失、また裝備の補充意の如くならないため、戦力の低下は著しく、先ごろの南昌、漢水作戦の経過がよく之を裏證してゐる。この大敗の責を負ふべき蔣介石始め黨要人が、今日依然としてこの職に侍り得るところに支那の支那らしいところがあり、彼等が今尚ほ

四川の奥地に生を保持するところに、支那大陸の廣大さが窺はれるのである。

かく大打撃を受けた支那軍として、消極的抗戦、所謂遊撃戦以外に抗戦手段がない。この遊撃戦法も支那なればこそ二年も三年も續けられるのである。然し抗戦によつて民が如何に苦しまうとも蔣の關知する所ではない。敵は弱兵になつたといへば、廣大なもの、支那大陸に焦土作戦を敢行する以上、その潰滅の困難なことは必然である。抗日勢力の潰滅は全土に亘つて日夜を分たず進行されてゐるが、討伐の勞苦は華々しい決戦の苦しみと勝つとも劣らない。長途而も大陸の炎暑、寒風、大を並べ、一滴の水なく、而も降雨一降れば泥流を液し、車輛は輻に覆り、雨水は肌を迫る。會々想ふも人家に人なく、食なく、饑と絶の懸念に暇なく、夜暗となれば敵に秘匿しての迂回行動、全軍隊として聲なく、唯野犬の吠ゆるのみ。かくして地遊撃の事は切つて落ちるものである。凡ゆる困苦敵を克服した報ひとして始めて討伐戦が開始される。われ等は日々傳へる新聞、放送等の一つ一つに就いてこの勞苦を分つ氣持を忘れてはならない。



蔣に達した財政状態とに拘らず、尚ほ抗戦を繼續し得る原動力が泰達に在ることは今や全國民に深刻な印象を與へてゐる。

多年支那を壓迫擄取しつゞけた英、佛、ソ聯等は事變以來擄奪行為を敢て行ひつゝ、ある。就中最近租界の紛争事件に現はれた英、佛の惡劣な行為はいたくわが國民の憤激を買つてゐるばかりでなく、現地支那人間にも排英氣運が勃興してゐる。口に租界の中立をとなへながら、抗日後援の據點として利用することに對しては吾人は斷じて許すことが出来ぬ。

一方ソ聯は相繼ぐず露骨な擄奪行為を繼續してゐる。ソ聯は今日迄飛行機による支那軍強化に努力しつゝあつたが、最近外蒙、滿洲國境方面に於ける擄奪はわが軍の機、たる戦果と餘符符たるわが戦力に世界を驚歎せしめ、却つてソ聯の武力の頼むべからざるを實證したに過ぎない。

わが南支那戦が進展した結果、敵をしてその補給の道を西南に求めざるを得ざるに至つた。今や西南援蔣ルートは佛領印度支那、英領ビルマに向つて萬難を排して建設されつゝある。

かく事變の前途には東亞新秩序建設の進むに伴ひ、東亞に存在した不逞勢力との衝突は今後激化が豫想される。

かく、東亞新秩序建設の敵抗日勢力の現状を檢討して見る時、われ等の明日否今日に實に國家存亡の岐路に立つてゐることを痛感せざるを得ない。支那大陸に於ける殘存政権に武力制壓を加へ、わが占領地域内の治安を確立し、尙ほ更に國際情勢に處して遠慮なきを期せんがために、萬難を排して軍備の基礎をなす綜合國力を擴充し、國家總動員の諸態勢を強化しなければならぬことになる。支那事變が凡ゆる部門に長期戦たる特質に備ひ、たゞ、かひは急々之からだとの國民的戦意を更に昂揚し、来るべき大困難を突破するの決意をかたむることが第三年に入るに方つての責務でなくてはならないと考へる。

蔣の奮闘は報ひられつゝある。即ち現地の治安は日一日と明朗化しつゝある。これを一年前徐州會戰當時に比べると非常な發展といへる。阜寧の恩威に服し、隨順したるの鎮守に五千、山西に二萬、河北、河南には皇軍軍生れ、山東に二萬五千、中支那に四萬五千計十萬を算するに到つた事實は特筆すべき事ではないか。

然し治安の現状は到底現状を以て満足し得ない。治安の確立には今後長年月を費さなければならぬが、事變第三年には現状より更に進展を見るべく、軍は全力を以て努力することとなる。

蔣たる國民政府が、相つゞけ敵戦と窮乏

敗をつゞけ、さきごろわが大木倉から發表されたやうに、敵の損失死傷累計に二百三十萬、飛行機二千餘機、大砲一千二百門に達する事實によつても支那軍の受けた打撃が如何に大きかつたか、推察される。蔣政権はかうした相つゞけ敗戦にも拘はらず、今尚ほ執拗な抗戦を繼續してゐる。敵は武漢喪失迄を對日消耗戦の第一期、それ以後を第二期とし、目下反抗戦準備時期と稱して、第三期到来せば攻勢に轉じ、一舉に日本軍を東海に覆滅せんと豪語し、意氣なかなかに此とすべきものがある。かくて軍の再建に努力した結果、今日蔣の兵力は再び百五十萬に達したやうであるが戦費喪失、また裝備の補充意の如くならないため、戦力の低下は著しく、先ごろの南昌、漢水作戦の経過がよく之を裏證してゐる。この大敗の責を負ふべき蔣介石始め黨要人が、今日依然としてこの職に侍り得るところに支那の支那らしいところがあり、彼等が今尚ほ



いく度か兵火をうけた大
地も、主の歸りを待つてお
た。打ち込んだ敵から放つ
なつかしい土の香が、この
一家の心を二年前の「吾が
家」にひき戻した。父と母
と三人の子は日の丸のもと
に別取られるこの秋の牧種
を夢みてゐる。家も直さう
戻も同じやう。





鉄路は伸びる

資源の開発、産業の振興には何といつても交通機関の復舊發達が先決問題である。支那軍は退却の際にはわが軍の急進を恐れてきまつて鐵道や道路を破壊してゆく。橋といふ橋は全部破壊し、築きはらひ、鐵道はレールから枕木まで持つて逃げる。これを後から後からと修理してゆくわが軍や、現地派達の鐵道復舊従業員の苦勞は大へんものである。しかし、その敢身のな努力と科學日本の優秀さはつひに凡ゆる困難を征服して、占領地内の交通を事業前よりもむしろ更にしたさへいへる。



1.2 中支には昨年十一月中華都市公共汽車会社が設立され、上海、南京等八都市にバスが開始した。支那で汽車といふのは自動車のこと車站(停留所)にバス待つ姑娘も、日本式にカバンを前にさげてサーブイスする姑娘のバスガールもここに新支那を點綴する。
3.4 敵の遊撃隊はいまもなほ鐵道をねらつて出沒することがある。わが對僑兵は興亞建設の生命線鐵道を護るためにも晝夜戦として警戒の眼を離さない。
5.6 わが陸の荒鷲に繰り返し、繰り返し撃たれた津浦線の保定駅も占領後一年八月、すつかり復舊した。浦口發北京行き列車が貨客を満載して到着した。
7 上海—南京間を結ぶ海甯線は急行六時間、兩都を結ぶ、海杭、蘇嘉甯線も修理が出来た。農夫も商人も夫々仕事に忙しくなつたためか、どの列車も満員の盛況だ。





皇軍技術部長 宮本武之輔

四月十六日神戸を出航した上海ゆきの太平洋丸は一

萬五千餘の兵士、設備は少し古いが、昇降機、設備があり、食室などは中々と思へない位天井が高く、豪華なつた。夜はそこで演習場、中に支那人の着る軍服、被褥や寝具などの餘りが置かれた。折よく中支連絡部の津田長官や森文化局長、鐵道省の上海事務所の加賀山氏などが同船され、上海到着までの三日間はデッキ・ゴルフやブリッジに時の移るのを忘れた。

東支那海は揚子江口に近づくに従ってガスが濃く、船は航行の自由を奪われ、黄浦江に進入したのは十九日の午後だつた。黄浦江には日軍艦や海軍艦を擧げた津山の船が或は碇泊し、或は航行してゐた。陸軍の御用船である。それらの船と萬歳を交換しながら黄浦江を遡江するときは、さすがに力強い衝動が感ぜられた。

午後三時楊浦碼頭に到着して新亞細亞ホテルに投宿したが、當時華中連絡部事務所はそのホテルに置かれてゐた。上海滞在の三日間は陸、海、外、各現地機關の歴訪と、華中水電會社の開水水道と發電所、華中水産會社の上海魚市場、華中電氣通信會社の真如電氣局、上海恒産會社、中支鐵道會社(當時は中支鐵道局)上海自然科學研究所などの視察とに費された。

設や、中山北路の防空壕などには、多くの示威を興へられた。

光華門、中山門の戦跡、中山陵、明孝陵、紫金山天文臺、下關碼頭などを次々に視察したうちで、特に私の興味を惹いたのは紫金山にある砲臺、簡儀と稱する砲臺の天體觀測儀だつた。それが明の英宗正統年間(一四三六—一四四九年)の製作に係るといふのを見て、古代支那の學術の偉大なる發達が窺ひ知られる。特にその砲臺の方は北清事變のときだけに獨逸軍に擧げられてボツタムの宮殿に持ち去られたのが、歐州大戰後の平和條約で支那に還されたといふのだから面白い。

四月十六日朝七時半ホテルを立ち、下關の華中水電發電所を視察して、發射機、揚子江の河床を横きつて浦口に渡つた。津浦線の終點である。午前九時浦口發、津浦線は四月一日から北京浦口間に、旅客列車一、貨物列車二の三列車を直通させることとなつたが、日本側の鐵道運送による貨物輸送の確實なことが漸次支那人の信用を得て、津浦線の直通以來貨物の出廻りが極めて良好であるといふ。日支合作はそこから始まるのだ。

鐵道の苦力は従前は一日二、三十錢の賃銀だつたのを、目下は五十錢の賃銀を支拂ふさうであるが、能率日本人鐵道工場の三分の一のくわらに過ぎないといふ。案内のために同車してくれた鐵道職員に對して私は工夫養成のことなどを話した。

沿線の民家は敗殘兵を近づけないために焼却したので、土民は一旦四散したが、今では皆つゞ復讐して、水牛などを使って水田を耕してゐる好ましい風景が車窓に展開していつた。

二時蚌埠に着く。これから北は昨年支那軍の手によつて堤防を潰された黄河の氾濫區域である。城水した黄河は今では淮河の支川潁水を經て淮河に合流し、洪澤湖や高郵湖に流入してゐるが、開封西方の決瀆所にして放任せられる限り、今年の出水期には又も黄河の全水域は河南、安徽、江蘇の幾耕地に氾濫するであらう。それを思ふと無心に畑を耕してゐる農民に心からの同情が表される。彼等は黄河が切れてゐることを知らず、ましてそれが自國軍

隊の所業であることも知らないのだ。定刻よりも一時間半遅れて九時半徐州に着いた。翌日は黄河の決瀆情況を見るために開封まで行くつもりで、朝七時徐州から臨海線の混合列車に乗つた。

二二日は早朝北站から杭州ゆきの汽車に乗つた。當時上海杭州間の直通列車は一日二往復で、車には支那人旅客が長い行列を作つてゐたが、汽車に乗れるのは僅にその半分くらいで、残りは午後

の列車まで取残される有様だつた。

徐州の所業であることも知らないのだ。定刻よりも一時間半遅れて九時半徐州に着いた。翌日は黄河の決瀆情況を見るために開封まで行くつもりで、朝七時徐州から臨海線の混合列車に乗つた。

二二日は早朝北站から杭州ゆきの汽車に乗つた。當時上海杭州間の直通列車は一日二往復で、車には支那人旅客が長い行列を作つてゐたが、汽車に乗れるのは僅にその半分くらいで、残りは午後

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

の列車まで取残される有様だつた。

文化の再建

治安の回復されたあとに文化建設の大業が占領地の各地におしよせられてゆく。戦後と戦前とを隔てる夢のやうに過去の想ひ出におしよつた人々のなかから、新しい精神の息吹が、すこやかな時代のめざめが、今、まさによみがへらんとしてゐるのだ。

1 太原の在留邦人の小さな子供たちは日本幼稚園に集つて遊ぶ。2 南京の支那人小学校も復旧後新政府の下に新しい教科書が出来、楽しい授業がはじまつた。3 北京の女学校(市立第一高女)の手書きの教科書も意匠は日本、材料は支那、といふ美しさを備へて一時期長崎にひきあげた上海の東洋文書院もとの交通大學あとに再建された。4 上海にはかつての商務印書館に代る中華書局が出来、数多くの各地の注文に印刷インキの書きも新しい教科書その他がどしどし刷られてゆく。

5 蒋介石國民政府側から接収した杭州圖書館も南京圖書館とともに興亞院華中連絡部の手で復旧資料整理委員会が出来、圖書整理がすすんでゐる。



事變勃發當初の思出

海軍中佐 松島 慶三

事變事件と海軍の位置

「我々は長らく北支において真に日支關係の調和に力を盡し、その結果が表面的ではあつたが、しかも現れて北支が漸次明朗化して来たのは、昭和十一年の暮で、僕も支那勤務三十年の内始めて家族を天津に移したやうな次第である。」

或る時、時の北支駐在武官が感慨深げに語られた。

國民政府の國を擧げての抗日政策と、抗日教育の徹底とに隠忍自重を積つて、堂堂たる平和的努力を續けて来た我が公正なる真意も、狂暴な軍閥の前のには無視に等しかつた。

一步我が譲れば我が増長するばかりで、かゝる幾多の侮目的行動は決して陸上にお

中支方面状況の通迫

北支における我が陸軍の進退なる行動は逐次に敵二十九軍を撃破しつつも、我が方針は極力北支で事件を喰ひ止めんと努力したのであつたが、中支方面に於ては一般の情勢は容易に樂觀を許さざることとなつて来た。

上海方面にあつた我が海軍當局は駐在武官等が如何にこの間に立つて慘憺たる苦心を拂つたか想像に餘あるものがある。

上海近郊の停戦地域内に、保安隊といふ名目で支那の正規兵が逐次侵入して来り、北、江、吳淞方面の防備が漸次に増大されて行つたのも此の頃である。

七月二十九日には通州、天津、塘沽方面で一齊に支那軍の攻撃が始まつた。我が艦隊が陸軍と協力して塘沽を占領したのや我が水上機が瀋水瀾る畑の中に飛行基地を設けて陸軍作戦に協同したのもこの時である。

内地から派遣される、陸軍部隊は我が海軍の備へたる護衛の下に一兵を損する事なく何等の不安なしに目的地に渡つて行つた。

この間、我が制海権の確保に十分なる努力を、我が制海権の確保が一層積極的であつたならばこの陸軍の派兵についても決して容易ならざるものがあつたであらう。

揚子江流域においては一旦事件勃發すれば引揚が容易でない居留民の收容については屢々語せられたが、先の通州事件にも鑑み遂に涙を呑んで引揚を断行するに決し、八月一日以来漢口から上流の居留民を、次で七日には此等居留民と漢口在留民を共に引揚げさせ逐次下流の同胞を合せて收容し我が軍艦護衛の下に山雨將に至らんとするが如き陰惨たる空気の非常なる危険を冒して下江して来た。

我が艦艇の上を支那の飛行機がすれすれに飛んで煙霧の機勢を示したり、或は又江

戦火再び燃ゆ

當時私は海軍事務及部員として事變應急の報道任務に當つてゐた。

七月九日午前二時頃、これら最後の艦隊、居留民を收容した船隻が無事江陰觀音の下を通過したとの報を得た時は上海にあつた旅団出雲艦上の長谷川司令長官始め感涙に咽んで喜ばれたと言ふ事である。

これらの艦艇及居留民は七月十日には全部上海に集結してしまつたがその前夜の九日の夜には上海で大山大尉事件が勃發したのである。

當時私は海軍事務及部員として事變應急の報道任務に當つてゐた。

七月九日午前二時頃、これら最後の艦隊、居留民を收容した船隻が無事江陰觀音の下を通過したとの報を得た時は上海にあつた旅団出雲艦上の長谷川司令長官始め感涙に咽んで喜ばれたと言ふ事である。

これらの艦艇及居留民は七月十日には全部上海に集結してしまつたがその前夜の九日の夜には上海で大山大尉事件が勃發したのである。

我が租界の周囲は十三萬の支那軍に包圍せられ三千の陸軍隊は全滅を覚悟して隠忍自重を積つてゐた。

八月十二日午後三時大山大尉事件の三發の砲撃がやがらぬ内に上海は正に敵軍の圍籠に陥つた。我が租界の周囲は十三萬の支那軍に包圍せられ三千の陸軍隊は全滅を覚悟して隠忍自重を積つてゐた。

八月十四日早朝からの爆撃開始、最後の一日迄と戦つた陸軍隊の健氣な奮戦、胸の底を掻きむしる様な敵砲の咆哮あり、戦場は一日々激戦を呈して行つた。

敵空軍の執拗なる爆撃と陸軍の猛烈なる攻撃一般情勢は誠に憂鬱すべきものであり我々も屢々最後の決心をする機会に遭遇したのであつたがこの危機に直前して戦つた艦隊に陸軍隊の努力は何物にも例へ難き崇高なる日本精神の發露そのものであつた。

あゝこれも二年の昔である。

當時陣頭に放つた雄々しき勇士達の枯骨には早急な手頃であるが聖戦の前途は靡蕪だ遠逝するを思はしめる。

加ふるに帝國を繞る四圍の情勢は一層我等同胞の結束奮起を促すや切なるものがある。

我々は東亞永遠の平和の爲に何處までも戦はねばならぬ。

一億同胞の決意と奮起は事變の將來を定める運命の鍵である。

否此以外に事局を解決する何物も無いのである。

いでのみに限らず、勃發方面において我が艦隊に加へられたる暴徒も故軍に遠ざかりてあつた。

冀察政務委員長たる宗哲元が、その特殊の地位を利用して一方には日本を擁護他方には南京政府と甘く跋を合せて自己の權勢の保持に努めて来たが、そして南京政府もまた宗哲元と云ふ鶴式存在を操つて、その間に漸次彼等の所謂決戦の時機を窺つて来たか、この間の複雑微妙なる關係は支那人でなければ理解不可能なる事柄である。

かくて事件は遂に起きた。

事件が起きて遂に射撃せられたら、一方には彼等の非を改めようとなつた北支軍當局の態度を以て見て我が方の真意が如何に平和に終始したか判るであらう。

事件勃發の報が傳はつたのは七月八日の朝で私達はすくさま所要の任務について事件の成行を注視した。

しかし事件は相當の擴大を免れず、十一日遂に廟溝派兵に決し政府は中外に派兵の所以を聲明した。

私の義弟の陸軍歩兵大尉も某要務を帯びてこの朝北支に飛んだ。

帝國海軍は北支における陸軍の作戦行動に直接協力すると共に、一方支那各地特に山東、揚子江流域、南支那沿岸における警備任務に一層の注意を拂ひ、在留邦人の生命財産を保護すると共に、帝國の各種權益を確保するに努め、更にその優勢なる艦隊の威力により支那海は勿論、西太平洋の制海権を斷乎確保して、國防上何等の不安を無くし無言の裡に事件解決上の一大原動力となつた。

一方また帝國政府が事件の擴大を望んでゐるに拘らず、萬一事態が全支に波及するやうな最悪の場合には、これに對する處置に必要な準備が行はれたのは勿論である。

北支における我が陸軍の進退なる行動は逐次に敵二十九軍を撃破しつつも、我が方針は極力北支で事件を喰ひ止めんと努力したのであつたが、中支方面に於ては一般の情勢は容易に樂觀を許さざることとなつて来た。

上海方面にあつた我が海軍當局は駐在武官等が如何にこの間に立つて慘憺たる苦心を拂つたか想像に餘あるものがある。

上海近郊の停戦地域内に、保安隊といふ名目で支那の正規兵が逐次侵入して来り、北、江、吳淞方面の防備が漸次に増大されて行つたのも此の頃である。

七月二十九日には通州、天津、塘沽方面で一齊に支那軍の攻撃が始まつた。我が艦隊が陸軍と協力して塘沽を占領したのや我が水上機が瀋水瀾る畑の中に飛行基地を設けて陸軍作戦に協同したのもこの時である。

内地から派遣される、陸軍部隊は我が海軍の備へたる護衛の下に一兵を損する事なく何等の不安なしに目的地に渡つて行つた。

この間、我が制海権の確保に十分なる努力を、我が制海権の確保が一層積極的であつたならばこの陸軍の派兵についても決して容易ならざるものがあつたであらう。

揚子江流域においては一旦事件勃發すれば引揚が容易でない居留民の收容については屢々語せられたが、先の通州事件にも鑑み遂に涙を呑んで引揚を断行するに決し、八月一日以来漢口から上流の居留民を、次で七日には此等居留民と漢口在留民を共に引揚げさせ逐次下流の同胞を合せて收容し我が軍艦護衛の下に山雨將に至らんとするが如き陰惨たる空気の非常なる危険を冒して下江して来た。

我が艦艇の上を支那の飛行機がすれすれに飛んで煙霧の機勢を示したり、或は又江

我が租界の周囲は十三萬の支那軍に包圍せられ三千の陸軍隊は全滅を覚悟して隠忍自重を積つてゐた。

八月十二日午後三時大山大尉事件の三發の砲撃がやがらぬ内に上海は正に敵軍の圍籠に陥つた。我が租界の周囲は十三萬の支那軍に包圍せられ三千の陸軍隊は全滅を覚悟して隠忍自重を積つてゐた。

八月十四日早朝からの爆撃開始、最後の一日迄と戦つた陸軍隊の健氣な奮戦、胸の底を掻きむしる様な敵砲の咆哮あり、戦場は一日々激戦を呈して行つた。

敵空軍の執拗なる爆撃と陸軍の猛烈なる攻撃一般情勢は誠に憂鬱すべきものであり我々も屢々最後の決心をする機会に遭遇したのであつたがこの危機に直前して戦つた艦隊に陸軍隊の努力は何物にも例へ難き崇高なる日本精神の發露そのものであつた。

あゝこれも二年の昔である。

當時陣頭に放つた雄々しき勇士達の枯骨には早急な手頃であるが聖戦の前途は靡蕪だ遠逝するを思はしめる。

加ふるに帝國を繞る四圍の情勢は一層我等同胞の結束奮起を促すや切なるものがある。

我々は東亞永遠の平和の爲に何處までも戦はねばならぬ。

一億同胞の決意と奮起は事變の將來を定める運命の鍵である。

否此以外に事局を解決する何物も無いのである。

我が租界の周囲は十三萬の支那軍に包圍せられ三千の陸軍隊は全滅を覚悟して隠忍自重を積つてゐた。

八月十二日午後三時大山大尉事件の三發の砲撃がやがらぬ内に上海は正に敵軍の圍籠に陥つた。我が租界の周囲は十三萬の支那軍に包圍せられ三千の陸軍隊は全滅を覚悟して隠忍自重を積つてゐた。

八月十四日早朝からの爆撃開始、最後の一日迄と戦つた陸軍隊の健氣な奮戦、胸の底を掻きむしる様な敵砲の咆哮あり、戦場は一日々激戦を呈して行つた。

敵空軍の執拗なる爆撃と陸軍の猛烈なる攻撃一般情勢は誠に憂鬱すべきものであり我々も屢々最後の決心をする機会に遭遇したのであつたがこの危機に直前して戦つた艦隊に陸軍隊の努力は何物にも例へ難き崇高なる日本精神の發露そのものであつた。

あゝこれも二年の昔である。

當時陣頭に放つた雄々しき勇士達の枯骨には早急な手頃であるが聖戦の前途は靡蕪だ遠逝するを思はしめる。

加ふるに帝國を繞る四圍の情勢は一層我等同胞の結束奮起を促すや切なるものがある。

我々は東亞永遠の平和の爲に何處までも戦はねばならぬ。

一億同胞の決意と奮起は事變の將來を定める運命の鍵である。

否此以外に事局を解決する何物も無いのである。

院容美トンサレス

かつては熾然きはまる抗日の據点だつた山西省の首都、太原府。この太原の街にも、皇軍の日章旗がひるがへつて一年有半、平和はよみがへり、臨時政府の治下九萬の市民はすすらかに業に勵んでゐるが、この支那市民に伍して、大陸で一はたあけようと熱意に燃える日本の商人が續々とこの街に進出、目ゆきの通りにペンキ看板の匂ひも著らしい店舗を次々とかまへ出した。在留邦人の数は六月の調べですでに六千人を突破、日本色、日本風景の氾濫がいたるところに見られる。然し、このやうなおびたらしい日本人の大陸進出に混つて一部の不徳商人、内地を喰ひつめて大陸にボロいもうけでもといふ火事場かせぎ的暴見の日本人がゐるといふ以てのほかの香ばしくないニュースもつたへられる。大陸に渡る日本人はすべて興亞大業の英兵たるべき覚悟と抱負をもつ立派な日本人であつてほしいといふのが現地當局の儼たる希望である。



日本色
商賣往來

太原



和洋菓子茶泉堂



味香なかや爽のしまのを實果鮮新

スーエジ治明

り觸舌い快

のもみ飲おの一隨夏

ルプツア
ンイパ
ブーレグ



社 會 式 株 菓 製 治 明

支那事變南獲品調べ



昭和十四年五月調
大本營陸軍部發表による

復習室

- 本號からあなたは何を學んだてせうか？
左の問題は總て本號の中にあります。さあ、復習をやりますせう。
- 1 上海 南京間はいつ急行列車で何時間か、りますか？ (15頁)
 - 2 蘆溝橋は何省にありますか？ (3頁)
 - 3 親日教科書は主としてどこで印刷されますか？ (18頁)
 - 4 上海の街をゆくと「公共汽車車站」と書いた標札が立つてゐます。どういふ意味ですか？ (14頁)
 - 5 海口の貿易は輸入超過になつてゐますが、この不足額は何で補つてゐますか？ (23頁)
 - 6 維新政府の所在地はどこですか？ (22頁)
 - 7 真茹無電報はどこと通信してゐますか？ (10頁)
 - 8 石景山製鐵所はどこが經營してゐますか？ (8頁)
 - 9 漢口の人口はいまどの位ありますか？ (22頁)
 - 10 支那で特産される棉花は一年にどの位ありますか？ (4頁)
- 右の問題、一問十點としてあなたは何點でせう。

所 込 申	價 定
郵 行 寄 書	一 冊 十 錢
郵 行 寄 書	半ケ年(前金)二圓四十錢
郵 行 寄 書	一ケ年(前金)四圓八十錢
郵 行 寄 書	半ケ年分米滿配郵寄の方は一圓十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい
郵 行 寄 書	内閣印刷局發行課
郵 行 寄 書	電話丸の内三三五一九
郵 行 寄 書	郵寄料一九〇〇
郵 行 寄 書	全国各地官報販賣所
郵 行 寄 書	東都書籍株式會社
郵 行 寄 書	各書店・洋書店
郵 行 寄 書	各新聞販賣店
郵 行 寄 書	寫真材料店

★ 養 紙

帝義、四千年の昔、天子の名も知らず鼻祖をうたひながら土塊を耕す農夫の物語りが治國の理想としてながく歴史に傳へられた。今とりいれをすればかりのむせるやうな小卒の束を前に四千年の昔の血をそのまゝ、繼ぐ大地の子は、考へず、嘆せず、たゞ胸から腹に深く吸ひこむ安タパコの一服を楽しむ。

撮影 同盟通信社



觀光滿洲

内地・朝鮮から
往復・回遊汽車賃

單	獨
...
...
...

詳細は滿鐵鮮滿支案内所へ

- 東京丸ビル 同赤坂葵町
- 大阪辨館 名古屋廣小路
- 門司税關前 下關驛前
- 新潟古町通

滿鐵鐵道總局

熱河承德の避暑山莊

内閣印刷局印刷發行

滿鐵鐵道總局
昭和十一年七月五日發行
第一四六〇日發行
第三十二號

(附録「軌道」・A4掛紙定規はき大の書本)